

協働事業報告書

事業の名称	第1回国際協働プロジェクト (ISAP)		
団体名・氏名	日本国際学生協会所属第1回国際協働プロジェクト (ISAP) 実行委員会	関係課(G)名	甲陵中学校
事業費	169,037円	市の負担額	100,000円
事業の目的及び内容	(目的) 学校における国際教育を推進し、異文化や異文化を持つ人を受容できる力を育成する		
	(内容) 国内外の学生に“一日の生活のフローチャート”や“将来の夢”を記入してもらいそれらを相手国の学生で交換を行った。日本国内の学生に対しては「展示会」で、フィリピンの学生に対しては「ポストカード」という形で交換を実施。		
	(市民活動団体等の役割) 事業の企画・立案・運営	(市の役割) 甲陵中学校生徒の自己紹介作成、企画内容への助言、現地フィリピンでの活動報告会の設定	

	市民活動団体等	市
協働事業の成果・効果	<p>今回、私たちが事前に予想していた数を大きく上回る学生（国内外問わず）とこの事業を行うことができた。これも一重に西宮市をはじめ協働校や他団体様の協力があったものと思う。事業の中での学生の様子は晴れやかで、交換ノートを書いている時の“将来を考える笑顔”、そして展示会で外国の価値観を目の当たりしている時の“相違に驚きながら楽しむ笑顔”は今でも我々はもちろん学生にも忘れ難いものとなったであろう。</p> <p>また、甲陵中学校が寄附したフィリピンの井戸を確認し、その井戸がどれほど重要な役割を果たしているか、実際に見て確認し、甲陵中学校の生徒に伝えることができたことは非常に有意義であったと考える。</p>	<p>これまでも講演や生徒会からの呼びかけ等でユニセフ活動への意識付けをしてきた。しかし校内での活動だけでは非常に難しい、現地訪問をこのような形で行い、様子を知る機会を持つことは、全校生徒の活動への自信につながった。また、生徒が国際的視野を持つきっかけにもなり、この企画は大変有意義なものであった。</p>

課 題	<p>この事業を通じて“ 継続性 ”を強く感じた。 今回、フィリピンと日本の間にも生まれた“ 絆 ” を今後も継続して結ばれるためにも、こうい った外交事業の必然性を再認識した。我々は 今回の事業を踏まえて、これからも外国との 協働事業の続行に尽力をつくしたい。</p>	
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

注1 事業実施が確認できる資料（写真、新聞記事、作成したチラシ、パンフレット等）を添付してください。

注2 事業の成果・効果欄には来場者数、実施日数等の数値に表れる実績の記載をお願いします。

注3 印の箇所は関係課(G)で記入します。

自 己 評 価 書 (甲 陵 中 学 校)

事業の名称	第 1 回国際協働プロジェクト (ISAP)	
団体名・氏名 関係課 (G)	甲陵中学校	
自己評価欄 (該当する選択肢に をつけてください。)		
1 . 計画どおりに 実施できたか	1 . できた	主な理由 (左記で 3 , 4 を回答した場合に記入)
	2 . 概ねできた	
3 . あまりできなかった		
4 . ほとんどできなかった		
2 . 事業実施によ り期待した成果を 上げることができ たか	1 . 期待どおり	主な理由 (左記で 3 , 4 を回答した場合に記入)
	2 . 概ね期待どおり	
3 . あまりなかった		
4 . ほとんどなかった		
3 . 協働で事業実 施した効果はあっ たか	1 . 非常にあった	主な理由
	2 . あった	ユニセフ委員会を通してのボランティア活動の 意義を再確認するよい機会となった。
3 . あまりなかった		
4 . ほとんどなかった		
4 . その他、評価 すべき点、反省す べき点	ユニセフ活動の具体的な相手の様子が感じられる機会はこれまでになく、生徒にとってボランティア活動の意義を再確認するよい機会となった。 また、社会には様々な活動をしている先輩がいるということを知ることも生徒にとって有意義であった。	

自己評価書 (ISAP)

事業の名称	第1回国際協働プロジェクト (ISAP)	
団体名・氏名 関係課(G)	日本国際学生協会所属第1回国際協働プロジェクト (ISAP) 実行委員会	
自己評価欄 (該当する選択肢に をつけてください。)		
1. 計画どおりに 実施できたか	1. できた	主な理由 (左記で3, 4を回答した場合に記入)
	2. 概ねできた	
3. あまりできなかった		
4. ほとんどできなかった		
2. 事業実施によ り期待した成果を 上げることができ たか	1. 期待どおり	主な理由 (左記で3, 4を回答した場合に記入)
	2. 概ね期待どおり	
3. あまりなかった		
4. ほとんどなかった		
3. 協働で事業実 施した効果はあっ たか	1. 非常にあった	主な理由 まず、西宮市をはじめ、甲陵中学校や他団体様との協働なしに、プロジェクトの成功はあり得ない。そしてその効果とは、生徒に外国という新しい価値観を我々が提供すると同時に、生徒が主体的に交換ノート作成に取り組み、大いに楽しんでもらえたという点にあると考える。
	2. あった	
3. あまりなかった		
4. ほとんどなかった		
4. その他、評価すべき点、反省すべき点	その他評価すべき点としては、「学校との強い連携」があげられる。生徒会役員の生徒との話し合いの場を設けるなど、このプロジェクトの開催準備において十分な環境を共に作り上げることが出来たのは成功に大きく寄与したと思われる。反省すべき点としては、「フィリピンとの橋渡しの不十分」があげられる。当初の目的として交換ノートの交換により、日本とフィリピンの学生の間には橋を渡すことがあった。しかし、実際には交換ノートを交換しただけでその後の連絡手段はない。もっと、“将来性”を考える必要があったと思われる。	